

令和8年度 第1回成田市公民館運営審議会 会議概要

1. 開催日時

令和8年7月8日(水) 午後2時から4時まで

2. 開催場所

成田市赤坂1丁目1番地3

成田市中央公民館 視聴覚室

3. 出席者

(委員)

松山毅会長、重廣悦子副会長、小林孝委員、佐々木英夫委員、大澤一貴委員、
高木麻由子委員、山谷友美委員、軸屋美恵子委員、土谷紀子委員、清水活次委員
(事務局)

日暮教育長、森田教育部参事、細田公民館長、
池淵事業係長、青野管理係長、有坂主査、堀越副主査、成田副主査、山内主任主事

4. 議事

(1)会長及び副会長の選出について

(2)令和7年度公民館主催事業の報告及び令和8年度公民館主催事業の進捗状況について

(3)令和7年度公民館主要工事等の報告及び令和8年度公民館主要工事等の進捗状況について

(4)第44回成田市公民館まつりの開催について

(5)その他

①成田市公民館個人利用試行運用の実施について

②中央公民館の学習スペースの空き状況確認機能の導入について

5. 議事(要旨)

【議事(1)について】

要旨：成田市公民館運営審議会委員の任期満了に伴い、成田市公民館の設置及び管理に関する条例第20条第2項に基づき、委員の互選により、会長に松山毅委員、副会長に重廣悦子委員が選任された。

【議事(2)について】

要旨：令和7年度公民館主催事業の報告及び令和8年度公民館主催事業の進捗状

況について説明を行った。その後、次のとおり質疑応答を行った。

(重廣副会長)

令和8年度公民館主催事業の進捗状況にあった、高校生先生プロジェクトについて、参加する生徒は成田市民なのか。また、開催時間の調整や、自宅から中央公民館まで通う際の交通費の援助を検討していただきたい。

(事務局)

先生役となる高校生は、原則として成田市在学在住の者としている。時間帯については、午後3時30分から夕方までとしている。ご指摘やアドバイスは今後に生かしていく。

(大澤委員)

高校生先生プロジェクトについて、夏休みの宿題は各学校によって傾向が異なると思うが、作戦会議の際に傾向を把握し共有することができれば、うまくいくと感じる。

(事務局)

貴重なご意見を生かしていきたい。

(山谷委員)

公民館主催事業については、昨年から非常に人気の高い講座があり、また日本語教室に多くのボランティアが活動している様子が見受けられ、非常に良い取り組みであると感じる。

高校生先生プロジェクトについても、魅力的に感じる。一方で、小中学生の保護者の立場からは、安全面に対する懸念もあり、高校生を対象とした活動において、公民館職員がどのような形で関与し、監督または支援を行うのか確認したい。特に、小中学生の連絡先の交換や SNS の利用などの取り扱いについて、どのような指導を想定されているのか伺いたい。

(事務局)

高校生先生プロジェクトでは、職員がファシリテーターを務める予定である。

また、指摘の通り、安全に子供たちが楽しく学べる環境を整えられるよう、適切に対応していく。

(土谷委員)

令和8年度公民館主催事業の進捗状況にあった「親子で作る手形足形アート」について、対象者が生後1ヶ月から2歳の子と母親となっているが、母親に限定した理由を伺

いたい。

（事務局）

本事業は、もともとベビーマッサージを計画していたが、昨年度の応募状況等を踏まえ、手形足形アートへ内容を変更した経緯がある。新規事業であり、母親同士の交流の場としての側面も考慮し、講師と相談の上、母親を対象とした。

実際に事業を実施した結果、母親に限定する必要性は高くないと判断したため、翌年度以降、同様の事業を継続する場合は、保護者を対象とする形で募集する予定である。

（軸屋委員）

「空港わくわく探検隊」について、昨年度 72 組の応募があり、今年度は 15 組のみの定員となっているが、1 回限りの開催ではなく、複数回開催することは難しいのか。

（事務局）

本事業は、公民館が手配したバスで参加者を空港内へ案内し、事前の許可が必要な制限区域に入る内容である。そのため、募集人数の増員は難しかったが、バスの定員ぎりぎりまで参加者を増やして実施した。

また、開催回数については、航空会社の全面協力のもと、講師料等を要せずに実施した事業であったため、1 回開催としている。

（高木委員）

毎年、新規事業が増え、内容も更新されていることを評価する。新規事業はどのように決定しているのか。

（事務局）

公民館の新規事業については、事業係 6 名のうち各職員から 1～2 事業程度の新規提案を受け、その中から目的等を勘案し、実施事業を選定している。

また、講座開催後に毎回参加者アンケートを実施しており、その結果も踏まえながら、新規事業の設定を行っている。「親子で作る手形足形アート」についても、記念になるものを作りたいという意見を受けて採用した講座である。

（高木委員）

市民の学びのニーズに応える公民館の役割として、非常に良い取り組みであると考え

る。

また、サークル化されたバレエ教室や韓国語講座についても、参加者同士の交流を深める機会として大変意義がある。連続開催できる講座については、今後も増やしていく

ことで、さらに発展につながるものと期待している。

さらに、委員就任当初と比べて、青少年教育事業や家庭教育支援事業が増え、内容も充実していることを確認した。以前の答申内容が反映されていることに感謝する。

(清水委員)

令和 7 年度に実施された「誰でも ZUMBA 教室」は非常に人気が高かったにも関わらず、令和 8 年度の事業予定に入っていないのは理由があるのか。

また、ヨガやピラティスの講座終了後、参加者が公民館サークル等へ移行する流れがあるのか。あるいは、年に 1 回程度の受講で終わるケースが多いのか、状況を知りたい。

(事務局)

令和 7 年度に実施した「誰でも ZUMBA 教室」は、定員 20 名に対して 63 名と、3 倍を超える応募あり、参加者からも好評で、継続開催を望む意見が多かった。

令和 8 年度当初の事業予定の中には含まれていないが、今後の状況を踏まえ組み換えを含めて検討しており、都合が合えば開催したいと考えている。

ヨガの教室については、「女性のためのナイトヨガ教室」を毎年開催しており、例年多くの応募がある。講座終了後は、中央公民館で活動しているヨガサークルの代表者等に連絡を取り、希望者が見学に行く機会を設けている。その結果、数名が見学に訪れており、入会に至った方もおられた。

(重廣副会長)

中央公民館での開催が多いと感じる。下総などの遠方の方は来館の手間や交通手段が少ないことから、参加を諦めることも多いのではないかと。地区公民館でも分散して開催することはできないのか検討いただきたい。

(事務局)

地域性を生かした事業の実施は課題と感じている。八生公民館の「親子たけのこ掘り体験教室」のような立地の特性や地域の特色を生かした講座を検討していきたい。

(山谷委員)

主催講座への参加にとどまらず、その後の継続的なサークル活動を通じて横のつながりが育まれることも重要であると考え。サークル立ち上げ後の運営について、何らかの支援はあるのか。また、サークル運営に関する相談が寄せられることはあるのか。

(事務局)

サークル立ち上げに関する支援については、昨年度、韓国語サークルの立ち上げに協

力した。具体的には、当初の活動に必要な部屋の予約や、公民館サークルを初めて利用する方のための説明を、初回の活動日に実施した。

また、バレエサークルについても、部屋の予約補助や、予約システムの説明などの支援を行っている。

サークル運営に関する相談については、月 1 回のサークル登録説明会を開催している。説明会では、公民館利用のルールやサークル登録の要件等について案内しており、サークル活動を希望する相談が窓口に寄せられた場合には、規約の内容に関する相談にも個別に対応している。

なお、説明会は希望があれば随時開催にも対応し、必要に応じた支援を行っている。

(高木委員)

公民館主催事業の広報方法について伺いたい。

(事務局)

広報なりた及びホームページの掲載、市の公式 LINE での配信を行っている。

また、公民館独自の公式 X を運用しており、募集を行っている。

紙媒体については、市内 13 館へのポスター掲示・チラシ配布に加え、事業内容に応じてコミュニティセンター、こども館、赤坂ふれあいセンター等、対象年齢層が利用する施設にも配布・掲示している。加えて、小中学生向け事業については、教育委員会の「すぐる」アプリでも配信している。

(高木委員)

親子体験学習セミナーなどの子ども向け事業については、子ども自身がチラシを見て保護者に参加を促すような流れも考えられる。夏休みなど、日程が限られる事業については、子どもが直接手に取れるチラシの活用も有効ではないか。家庭内で話題となり、家庭教育にもつながるのではないか。

(松山会長)

公民館は主催事業だけでなく、地域のサークルや団体等にも幅広く利用されている。どのように活用されているか、実態調査のようなものは行っているのか。また、生涯学習大学や市民大学のような取り組みとの関係、さらに障がいのある方の学びや社会参加を促進する事業の実施可能性についても伺いたい。

(事務局)

実態調査については、現時点では実施していないが、貴重な意見として受け止め、今後検討していきたい。

また、生涯学習課主管で生涯大学院を実施しており、2 年間の課程で高齢者が学ぶ機会を設けている。さらに、明治大学・成田社会人大学も実施しており、単発参加も受け付けている。

障がいのある方の学びや社会参加について、市長部局のスポーツ振興課においてパラスポーツ体験会等を実施している。夏休み期間にはパラスポーツ週間の取り組みもある。このほか、今年は車椅子バスケットボール関係者による講演会を予定している。

(松山会長)

公民館事業については、学習や交流、文化の提供を通じた人づくり・まちづくりの視点が重要である。人気事業の実施にとどまらず、公民館としてどのような意義を持つ事業を行うのか、今後も検討してほしい。

また、高校生が小中学生と関わる事業は、双方にとってロールモデルとなる機会であり、大学生も含めた参加の広がりがあれば、公民館ならではの取り組みになると考える。

「組みひも教室」や「ホールでピアノを弾いてみよう」の講座概要について伺いたい。

(事務局)

「組みひも教室」は、公民館まつりに出展していた熱心なサークルに依頼し、指導者によって実施したもので、当日にサークルも誕生した。

「ホールでピアノを弾いてみよう」は、成田公民館や大栄公民館などで実施している事業で、舞台上のグランドピアノを 1 組約 1 時間程度利用できる。家族での合奏などにも活用され、人気の高い事業となっている。玉造公民館でもグランドピアノ設置の貸室があり、家族での利用がある。

(松山会長)

家族で音楽を楽しむ活用方法など、ユニークで興味深い。公民館が地域の交流や学びの場として、今後もさまざまに活用されることを期待する。

【議事(3)について】

要旨：令和7年度公民館主要工事等の報告及び令和8年度公民館主要工事等の進捗状況について説明を行った。その後、次のとおり質疑応答を行った。

(松山会長)

公民館は避難所に指定されているのか。

(事務局)

避難所に指定されている公民館がある。

また、早期開設避難所としては、今年すでに台風接近に伴い 2 回開設している。避難所が開設された際は、一般利用を停止し、避難所としての運用が優先となる。

(松山会長)

修繕工事や休館中に災害が発生した場合の対応について、BCP の観点からも検討が必要ではないか。

(事務局)

早期開設避難所として指定されているのは中央公民館と大栄公民館であり、今回の工事対象である大栄公民館については、業務継続計画の観点も含め、自然災害や不審者対応など不測の事態への対応を今年度改めて検討している。その一環として、休館中の災害対応についてもあわせて検討していく。

(佐々木委員)

避難所は学校やスポーツ施設もあるため、公民館としては早期開設避難所のみの対応か。

(事務局)

早期開設避難所は中央公民館と大栄公民館のみであるが、学校等を含めて他にも避難所は設置されている。横の連携を含め、今後検討していく。

(松山会長)

避難先として想定している場所が使用できない場合に備え、事前の周知や代替措置の検討が必要である。老朽化も進んでいるため、修繕対応も含め、引き続き適切な管理をお願いしたい。

【議事(4)について】

要旨：第 44 回成田市公民館まつりの開催について説明を行った。その後、次のとおり質疑応答を行った。

(佐々木委員)

昨年、販売について、公民館設管条例等の制約の範囲内にとどめるだけでは広がりがないのではないかという意見があったが、その後の対応はどうなったのか。

(事務局)

昨年度は、キッチンカーや招待団体として、主に福祉団体によるパン販売等を実施した。人が集まるイベントという観点から、本年度も同様の実施を予定している。

（大澤委員）

成田市ならではの特色を出した催しとして、空港関連や航空会社の協力を得た企画を実施できないか。来年度以降の実現可能性について伺いたい。

（事務局）

昨年度から、多世代が集まるイベントとして、白バイ・パトカー・消防車を招待している。今年度はそれらに加え、自衛隊にも協力を依頼し、車両展示等ができればと考えている。空港関連を含め、成田ならではの特色を出せる企画については、今後検討していく。

（重廣副会長）

昨年度は新たな取り組みとして、ペットボトルを販売し、その収益を手伝いをしてくれたジュニアリーダーズの活動支援に充てた。

一方で、実行委員会の高齢化が進み、新しい取り組みには消極的な面があり、若い実行委員の参加を増やす必要があると感じる。昨年度のスタンプラリーなど、新しい取り組みは継続していただきたい。

（事務局）

スタンプラリーは昨年度から始めた新しい取り組みである。大澤委員には実務面でも子どもたちと一緒に協力いただき、感謝している。

参加者からも好評であったため、今後も継続したいと考えている。

（小林委員）

地区館で公民館まつりを開催する可能性について伺いたい。中央公民館だけでなく、各地域で開催できれば、地域への周知や活性化につながるのではないかな。

久住地域のように高齢化が進む地域では、交通手段等の課題もあるが、地域のコマースとしての効果は大きいと考える。

（事務局）

以前は、各公民館で発表会や集いを実施していたが、サークル数の減少や高齢化により、次第に中央公民館へ集約されてしまった経緯がある。

地区館の活性化は公民館としても目指す方向であり、他団体との連携も含め、実現方法を模索していきたい。

(山谷委員)

公民館まつりは、サークル発表の場であると同時に、公民館が活用できる場所であるとのアピールにもなる。

「3 人集まればサークル登録ができる」など、公民館の利用方法が分かる案内があれば、市民へのメッセージとして有効ではないか。

(松山会長)

中央公民館だけでなく、地区ごとに複数館で持ち回り開催する方法も考えられる。地域の方々の居場所づくりや交流の場につながるため、検討の余地がある。

また、授乳スペースや休憩スペースなど、子育て世代や人混みが苦手な方にも配慮した場づくりも重要である。

(軸屋委員)

大栄公民館まつりは、以前は 10 年ほど自分たちで運営していたが、高齢化により継続が難しくなり終了した。タイムテーブル作成や出演者調整なども含め、運営には相当な労力が必要であった。

当時は老若男女が集う素晴らしい場であり、率先して担う人材がいれば、今後も継続できたのではないかと感じている。細く長く続けることの大切さを実感しており、担い手の発掘が必要である。

(松山会長)

人材の発掘は、公民館を含む社会教育・生涯学習事業の大きな課題である。音楽や発表の場なども含め、今後検討していく必要がある。

また、公民館に授乳スペースや休憩できる場所を設けることで、子育て世代や人混みが苦手な人にも利用しやすい環境になるのではないか。

(事務局)

中央公民館には授乳室があり、利用可能である。

(松山会長)

地域の祭りでは、子どもが休憩できるスペースを設けることで好評を得ている。公民館でも、落ち着いて休める場所を意図的に設けることで、多様な来館者が利用しやすくなるのではないか。

(重廣副会長)

公津公民館の「しだれ桜ふれあいまつり」は、以前は宗吾霊堂との連携で実施してい

たが、高齢化等により継続できなくなった。地域の人々がもりんぴあこうづへ流れ、公民館自体も衰退している。

今後は、ジュニアリーダーズや成田市子ども会育成連合会など、若い世代を巻き込まなければ、公民館まつりの継続は難しいのではないかと。

(事務局)

公民館を若い世代にも身近な場として感じてもらえるよう、今後はその点を意識して取り組んでいきたい。若い人たちが自然に集える場所として、公民館を盛り上げていく方法を検討したい。

(松山会長)

今後は、担い手をどう育て、継続的に事業を実施していくかが大きなテーマとなる。引き続き検討していただきたい。

【議事(5)について】

要旨：「成田市公民館個人利用試行運用の実施について」及び「中央公民館学習スペースの空き状況確認機能の導入」について説明を行った。その後、次のとおり質疑応答を行った。

(重廣副会長)

学習スペースの空き状況確認について、赤坂ふれあいセンター内の学習室は、該当しないのか。

(事務局)

今回は中央公民館及びもりんぴあこうづで実施している。

6. その他

議事事項なし

7. 傍聴

傍聴者 1名